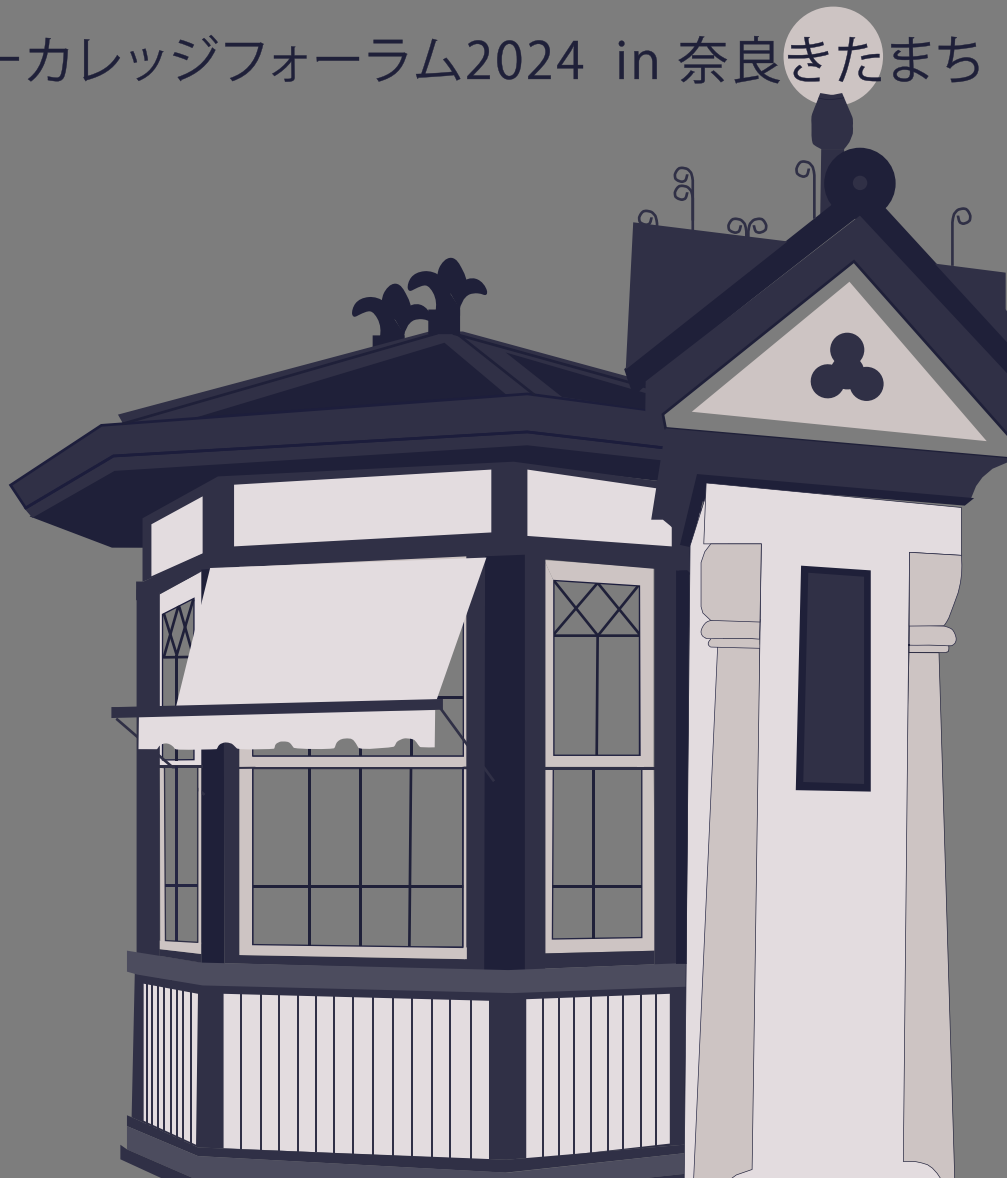


インターカレッジフォーラム2024 in 奈良きたまち



目次

「インターカレッジフォーラム in 奈良きたまち」とは？	2
主催／協力団体紹介	3
スケジュール	4
成果 大和ならきたまちチーム（奈良学園大学）	8
過去・現在・未来を結ぶ「奈良きたまちの郷土かるた」	
一子どもたちに伝えたい「きたまち」の魅力ー	
きたまちづくり（畿央大学）	10
きたまちで暮らそう	
みんなで守る資産（畿央大学）	12
奈良きたまちの歴史資産の魅力再発見	
都市計画研究室（同志社女子大学）	14
みんなの居場所きたまち	
～きたまち lover を増やしたい～	
路地裏物語（畿央大学）	16
路地裏の魅力	
motto きたまち応援団（奈良県立大学）	18
子供と中・高齢層の多世代「共存」の場としてのきたまち	
「街区公園」再考	
成果発表会・交流会	20
審査・総評	22
地域・教員からひとこと	24
謝辞	26
参加者一覧	28

「インターカレッジフォーラム in 奈良きたまち」とは？

「インターカレッジフォーラムin奈良きたまち」は、奈良市の旧市街地である奈良町の近鉄奈良駅以北「奈良きたまちエリア」を対象に、奈良町近郊の大学生が地域の支援を得て、さまざまなテーマで地域課題に取り組むプログラムです。

大学、地域のまちづくり団体、奈良市が協働して実施する民学官連携プログラムで、学生は授業やゼミ単位で約4か月にわたって取り組み、地域のまちづくり団体や住民の協力を得ながらまとめた成果を発表します。

※令和6年度より「奈良きたまちインターカレッジコンペティション」から「インターカレッジフォーラムin奈良きたまち」に名称を変更しました

＜「インターカレッジフォーラム in 奈良きたまち」の特徴＞

- ① 各大学が授業等で取り組む、継続性のあるプログラムです。
- ② 複数の大学が参画することで多角的な視点を地域に提供できます。
- ③ 複数の大学が交流することで学生や教員が刺激を受け合っています。
- ④ 大学と地域のまちづくり団体が連携し取り組み、さらに行政がサポートすることで、それぞれが得意とする役割を担い事業を実現しています。

いま、大学生に求められるもの

地域の課題を読み取り課題解決案を主体的に考える力は、仕事や日常生活のなかでも求められるスキルとして、昨今、大学教育においても重視されています。大学の教室から地域に出て、地域の人とコミュニケーションを取りながら地域を見つめて課題を抽出・分析し、目指す成果をわかりやすくまとめてプレゼンテーションする、これらの力は、学生が実社会に出た際に大いに役立つ力となります。

いま、地域が求めるもの

人口減少、少子高齢化、地域経済の縮小など、現代の日本はさまざまな課題を抱えています。これらの課題は地域の日常生活にもいろんな形で影響しています。課題をすぐに解決することは難しいかもしれません。しかし、学生が発見した課題やそれを解決する発想が地域に新たな気付きを与えてくれることを期待しています。

なべかつ／鍋屋連絡所の保存・活用と

“奈良きたまち”のまちづくりを考える会

旧鍋屋交番きたまち案内所の管理・運営とあわせて、奈良きたまちの調査や良さを広く伝えていく取組を行っています。

てんかつ

／転害門前旧銀行建物活用協議会

転害門横の旧南都銀行の建物を活用した奈良市きたまち転害門観光案内所をボランティアで運営、管理しています。

きたまちコンセント

奈良きたまちの店舗や団体、施設等をネットワークし、MAPの発行、マーケットの企画などの活動をしています。

大学

2024年は、畿央大学、同志社女子大学生活科学部人間生活学科都市計画研究室、奈良学園大学、奈良県立大学が参画しています。

奈良市／新奈良町にぎわい構想

奈良市は、新奈良町にぎわい構想を平成29年に策定し、奈良町の歴史・文化を基盤に、地域のまちづくり活動を原動力とし、生活、観光、生業をつくりだすことを目指して、奈良町に関わる人々と協働したさまざまな取組を行っています。その一環として、アクションプランVer.2に奈良町エリアでの民学官連携による学際プロジェクトを位置づけ、「インターカレッジフォーラムin奈良きたまち」を支援しています。



2024年4月20日（土）9:45～15:00／オリエンテーション・まち歩き

奈良県立大学コモンズ棟のイベントスペースで、学生たちが和やかに自己紹介を行った後、ガイダンスときたまちの解説が行われました。午後からは、7つのグループに分かれ、まちづくり団体の案内人が、店舗、暮らし、歴史、会所、長屋、川や路地といったコースを案内しながら、きたまちの魅力と現状を説明しました。





2024年4月下旬～6月上旬／

各大学での授業・現地調査・ヒアリング

地域の課題を読み取り、まち歩きが終わったら、それぞれの大学の授業とゼミで情報を共有。興味のある内容について議論を重ね、アイデアを出し合いました。地域課題を深掘りするために、地域の人や市の関係課に協力を得ながら、ヒアリング、データ収集、アンケート調査等を実施しました。



2024年6月8日（土）14:00～16:00／中間発表

オリエンテーションから成果発表会までの中間にあたる6月上旬、オンライン中間発表会を行いました。学生は、自宅や大学から個人やグループで参加し、現時点の提案をまとめて発表しました。地域の人や市職員からは多くの質問やアドバイスがありました。学生たちは、成果発表会に向けて新しい気付きを得ることができました。



2024年6月中旬～8月上旬／

各大学での授業・現地調査・ヒアリング

中間発表を終えた学生たちは、提案を深めるために再び地域に足を運び、不足している情報の調査やヒアリングを行いました。

成果発表会の直前まで時間をかけて準備を重ね、ひたむきに地域課題と向き合いました





過去・現在・未来を結ぶ「奈良きたまち郷土かるた」 ー 子どもたちに伝えたい「きたまち」の魅力 ー

大和ならきたまちチーム（奈良学園大学）

中山友基 平野健太 齋藤慶一 西村大稀 山崎泰輝 藤本歩奈

1. はじめに

- ・きたまちの国勢調査（2020）を見ると、20～24歳の女性が多く居住しているということが特徴的だが、14歳までの子どもは2600人程度おり、きたまちには、子育て世帯も多く存在しているといえる。
- ・まち歩きにて、静かな住宅街の中に数多くの文化資産があることを実感し、地域の方々が教えてくださった「きたまち」の話は魅力にあふれていた。

例）正岡子規の「柿食えば 鐘が鳴るなり 法隆寺」が、実は東大寺の鐘の音だったのではないかと
転害門は、行基が手招きをしたことから「手搔門」とも書く、など

誰かに伝えたくなるような面白い話が、「きたまち」にはある！！

2. 提案テーマと内容

提案テーマ：過去・現在・未来を結ぶ「奈良きたまち郷土かるた」

ー 子どもたちに伝えたい「きたまち」の魅力

提案内容：子どもに伝えたい地域の事柄をテーマにすることで、次世代を担う子どもたちの地域理解教育に役立てる。制作後、地域のお祭りなどで郷土かるた大会を実施し、子どもからお年寄りまで、みんなで遊び、「きたまち」の魅力を伝える。

◆「郷土かるた」の定義について

第1に郷土の範囲は都道府県程度ないし市町村程度の範囲とすること、第2に、取り上げる題材は、その郷土を代表し、かつ様々な内容にわたるものとすること、第3に、「いろはかるた」（「あいうえおかるた」）であることとされている（原口・山口（1995））。

◆すでに、奈良県下には数多くのかるたが存在しているが・・・

群馬大学の図書館には、「郷土かるたコレクション」のアーカイブがあり、現在、登録されている奈良県の郷土かるたは2種類であった。なお、奈良県下では、これまでに26種類のかるたが制作されているが、「奈良きたまち」を題材とした郷土かるたは、ないようである。

3. 「奈良きたまち郷土かるた」の制作工程と読み札案

5月 聞き取り
調査開始



郷土かるた大会実施



6~7月
読み札づくり



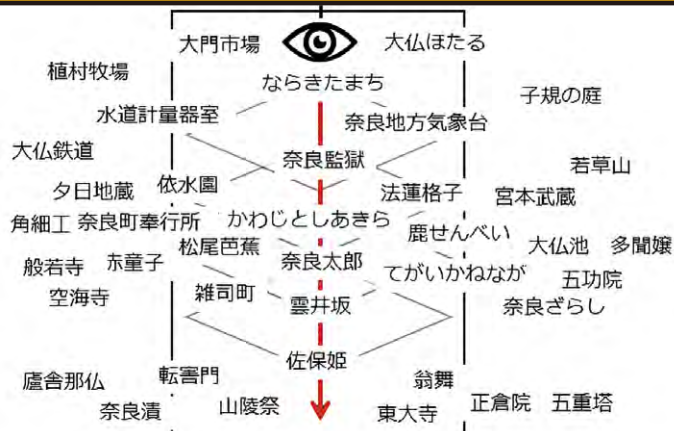
読み札の
キーワード抽出
63個⇒50個⇒46個



読み札の完成
絵札の写真撮影
試作品、完成！

絵札は、AIイラストレーター
Artguruを採用

1300年の歴史が折り重なった「ならきたまち」



1	あ	あくびようを たちきるかみのこ あかどうじ (赤童子)
2	い	いすいえん ひろいおにわが みごとだな (依水園)
3	う	うさはちまん みこしにのって とうだいじ (宇佐八幡、東大寺)
4	え	えとじだい ぶぎょうがわつた えいたいばし (永代橋)
5	お	おぼうさん ぎょうれつはなやか さんりょうさい (山陵祭)
6	か	かねながの ぜんでもきれる にほんとう (てがいのかねが)
7	き	きたまちで さんべいやくのほ しかため (鹿せんべい)
8	く	くもいざい だいにじゃにおわれた おぼうさん (雲井坂)
9	け	げいこさん おまいりいった えびすじんじゃ (川上蛸子神社)
10	こ	コーンと はちにひびく ならたろう or かねのおと (奈良太郎)
11	さ	さほひめが はるのけしきを つれてくる (佐保姫)
12	し	じゅうしちや にがつどうでの ぼんおどり (十七夜)
13	す	すんでみて みんななかよし ならきたまち (奈良きたまち)
14	せ	せんねんの むかしつるん ならやえざくら (奈良八重桜)
15	そ	そうしちよう じょうがはんぞん くらがじい (雑司町、空海寺)
16	た	ただいぶつつけ もみがいつぱい きれいだね (大仏池)
17	ち	ちちょっとみで ルリセンチコガネ ひかてる (ルリセンチガネ、奈良公園)
18	つ	つのざいく アクセサリーも つれるよ (角細工)
19	て	てがいもん れきしがかる やじりと (転書門)
20	と	とおくから かねがきこえる しのにわ (子規の庭)
21	な	なつぷこ はるかむかしの おきなまい (翁舞)
22	に	にぎやかに たびだとおる とろきばし (轟橋)
23	ぬ	ぬきんでた ならをさえた めいぶぎょう (かわじとあきら)
24	ね	ねんしうじ かわなかじぞうを みまもるよ (念声寺、川中地藏)
25	の	のうかさん しかをおもて ほうれんこうし (法蓮格子)
26	は	はんにやじから おおくのおはなし うまれたよ (般若寺)
27	ひ	ひとびとの くらしをさえた おおもんちば (大門市場)
28	ふ	ふくらんだ あたまをもった あみださま (五功院)
29	へ	へいじょうきよ ぼんのおんじん かじゅうろう (棚田 嘉十郎)
30	ほ	ほうりつで ひびともる ならぎょう (奈良奉行所)
31	ま	ままぼろしの ごうかなおりの たもんじよう (多聞城)
32	み	みとりいけい かすがのとりい みえてきた (みとりあ池)
33	む	むかしから みんなをみまもる ゆうひじょう (夕日地藏)
34	め	めしあがれ ならづけたべて けんこうに (奈良漬)
35	も	もうつくよ ならざちかうの みちるべ (奈良阪町、道標、常夜燈)
36	や	やわらかい しろくてきれいな ならざらし (奈良ざらし)
37	ゆ	ゆきとけぬ だいぶつあたまた みたばしろう (松尾芭蕉)
38	よ	よるさんぽ だいぶつはたる ほしみたい (大仏はたる)
39	ら	らいうんだ くわしくたえた きしうだい (奈良気象台)
40	り	りっぱだね ならけんいちの ごじゅうとう (五重塔)
41	る	るしやなづつ みんなのねがい ききいれる (奈良)
42	れ	れんががみ おしろみたいな ならかごく (奈良監獄)
43	ろ	ろうそくの あかりにうかが おじどうさん (地藏盆) or ろせんがね 10きろつづ だいぶつてつどう (大仏鉄道)
44	わ	わわくさやま よならをこがす ひのまつり (若草山の山焼き)
45	を	をいかわすいを ならしにくた けいりようしよ (水道計量器室)
46	ん	んおへと うむらばくじょう うがねく (植村牧場)

01 まち歩きでの衝撃

1：歴史ある鼓阪小学校の廃校

150年近くの歴史を持つ「鼓阪小学校」が、児童数の減少に伴い、2025年度をもって廃校となる。ピーク時には200人を超えた児童の数は、校区の変更や子育て世帯の減少によって80名ほどにまで減少している！！

2：家族向け賃貸住宅少・空き家増

空き家・空き地は年々増加している。古都の伝統的な町割りが残るきたまちでは、縦長の敷地が目についた。賃貸住宅は、他の地域に比べ、一人暮らし向けが多く、家族向けの物件は少なかった！！

3：一步入ると閑静な住宅街

歴史遺産豊富な観光地としてのイメージが強かった奈良の中心地が、実は、一步入ると、隠れた名店がいくつもある、駅近の閑静な住宅地だった！！

超贅沢！世界遺産は庭

歴史文化あふれる唯一無二のきたまちで子育てをしたい人あつまれ！

人口動態の分析からは、同一校区内での移動が少なくなく、まずは住んでもらうことが重要！！

02

課題の抽出

子育て世帯として移住するつもりで、地域の気になる情報を集めてみたら・・・



公的サービスはHPでわかるが、地域の活動や慣習などは一元化されていないため、わかりづらい！

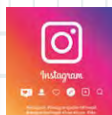
提案

暮らしに必要な情報を集めた自治会ごとの冊子 「きたまちでくらそう」を創刊

自治会費の金額、役員の決め方、祭りごとの慣習、草刈りや水路掃除の共同作業など、各自治会によって異なる様々なルールをまとめる。

今回制作

今後の展開



自治会ごとに冊子を作成する。
今回は、鼓阪小学校区 今在家自治会編
を作成。内容はInstagramでも配信

各自治会ごとに「きたまちでくらそう」制作隊
を結成し、住民+学生サポーターで制作
小学校区全ての自治会分が完成したら、
一冊にまとめても良い

冊子は、奈良市HP「地域の活動・自治
会」でもデジタル版として公開する

Point01

掲載内容

きたまち・小学校区のこと

- きたまちの概要
- 小学校区の概要

歴史遺産・神社寺のこと

- 対象の地域に関連の深い歴史遺産や社寺仏閣について

地区のこと

- 自治会費について
- 当番の決め方について
- 地域活動について

その他 地域の魅力

- 推しとなる地域の魅力など

Point02

活用方法

移住者

移住前にInstagramで地域の風習やルールを知り
生活のイメージを把握し、ミスマッチを防ぐ。
移住時に冊子を受け取り、生活の大切なツール
として活用する

地域住民

どんな慣習やルールがあるのかを伝えるために
は、地域住民が協力してルールを把握・整理
しておくために、活用する。時代に合わせて
ルールを見つめ直すことが必要な時にも便利。





①きたまちを散策して

こんなにも魅力があるのにどうして「きたまち」は知られていないのだろう。このきたまちを魅力あふれる町として発信し、知名度をあげられないだろうかと考えました。

②街歩きをして感じた課題

「きたまち」にはあまり知られていない歴史と魅力のある建物が多くあるのに、あまり知られていない。

③私たち〈建築を学ぶ学生〉にできること

- ・ 厚紙を使って手のひらに収まる小さな模型キットを作ること。
- ・ 指で押してきりはなれるようにあらかじめ切り剥いておくこと。
- ・ 模型製作になじみのない人でも簡単に作れるように作り方の解説書も用意すること。

この三つが私たちにできることとしてあげられました。

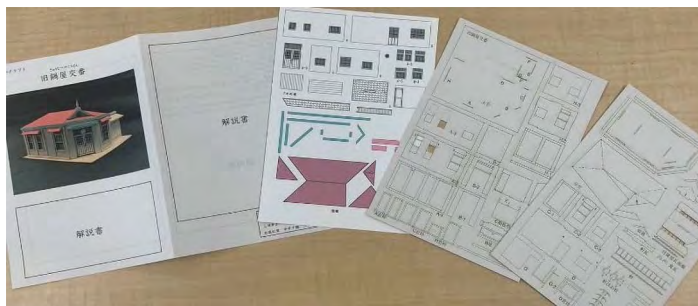
④どの建物の模型を作ろうか？

- ・ まず初めは、「きたまち」を代表する建物の模型を作りたいと考えました。候補は、「旧鍋屋交番きたまち案内所」、「旧奈良監獄」等数が多いが、お土産として手に取ってもらうためには、規模、作りやすさ、有名さから考えてやはり「旧鍋屋交番きたまち案内所」から始めようと考えました。

⑤クラフトきつとに込めた思い

- ・ 自分の手で歴史的な建物の模型を作ることができれば、きつと建物に愛着が生まれる。
- ・ 完成した模型を、棚に飾って時々眺めることができれば、離れていても身近に感じることができる。
- ・ 他の歴史的な建物にも、「きたまち」にも、それを守り、伝えてきた人たちにも、目を向けるキッカケになるかもしれない。
- ・ お土産ものとして、販売することができれば、売り上げは維持管理費の一部にあてることができる。

販売する実際のクラフト模型写真



今後の取り組み

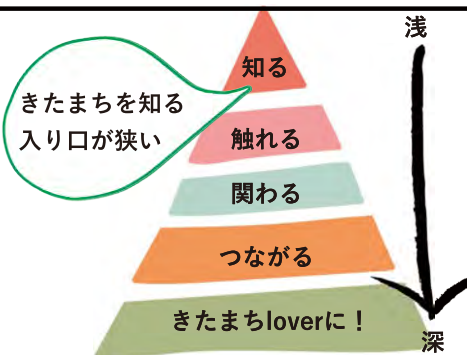
現在のクラフト模型が二つだけなので種類を増やし、かつ完成度をより高くしていきます。また、どのように販売していくかを検討していきます。

1. きたまちのいいところ

- ・静かで自然が豊か
- ・1300年の歴史
- ・小さなショップや隠れ家カフェが
たくさん
- ・あたたかくてパワフルな方が多い 等

2. 私たちが考えるきたまちの課題

自然、歴史、店舗、人など、見どころがたくさんあるにも関わらず、きたまちの良さを知るきっかけが少ない！



3. 提案までの経緯

①空き家を活用したい！
→長屋の調査、ヒアリング



②活用事例の調査
(料理教室として活用)



③なべかつのヒアリングで
旧細田家住宅を知る



④旧細田家住宅の見学
文化財課へヒアリング



⑤旧細田家住宅のイベントアンケートの分析
(内部空間への興味、活用を望む声など)

⑥旧細田家住宅がきたまちを知る『きっかけ』
になるのでは！？

4. 私たちのテーマ

きたまちを「のんびり」「ゆったり」できる居場所に！

- ①きたまちにあるものを活かす
- ②きたまちを知るきっかけになるイベントを
旧細田家住宅で実施
- ③1日、きたまちで過ごしてもらう

具体的に
2つのイベント
を提案

かまど

×

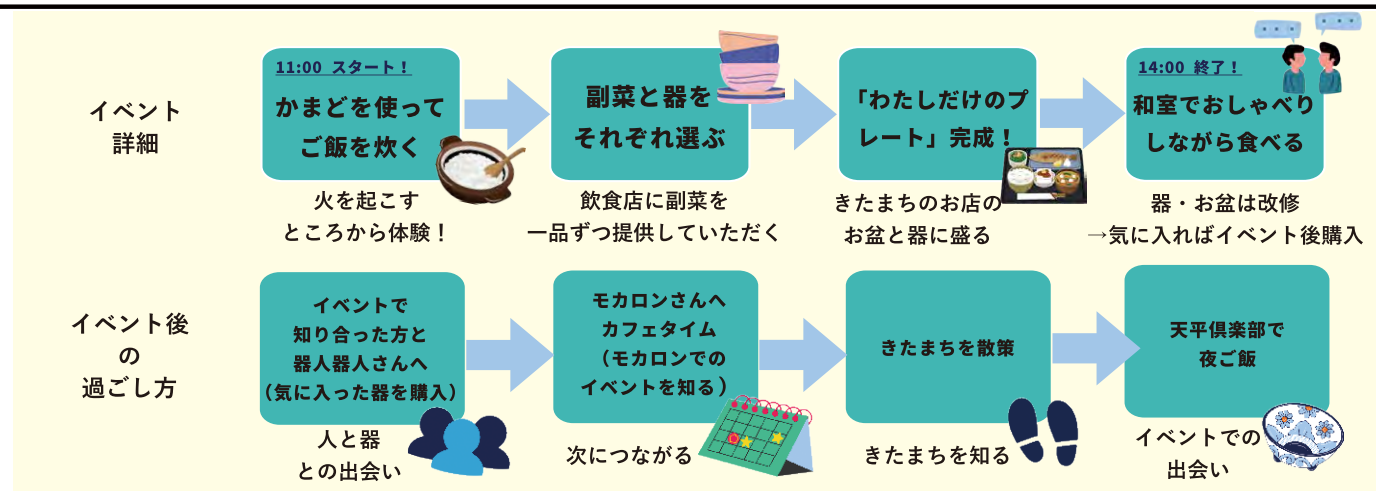
器

畳

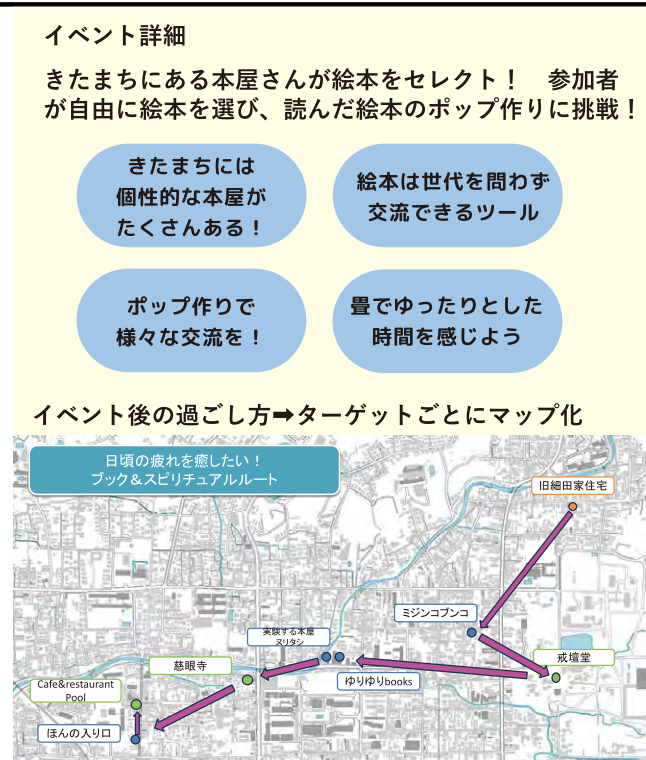
×

本

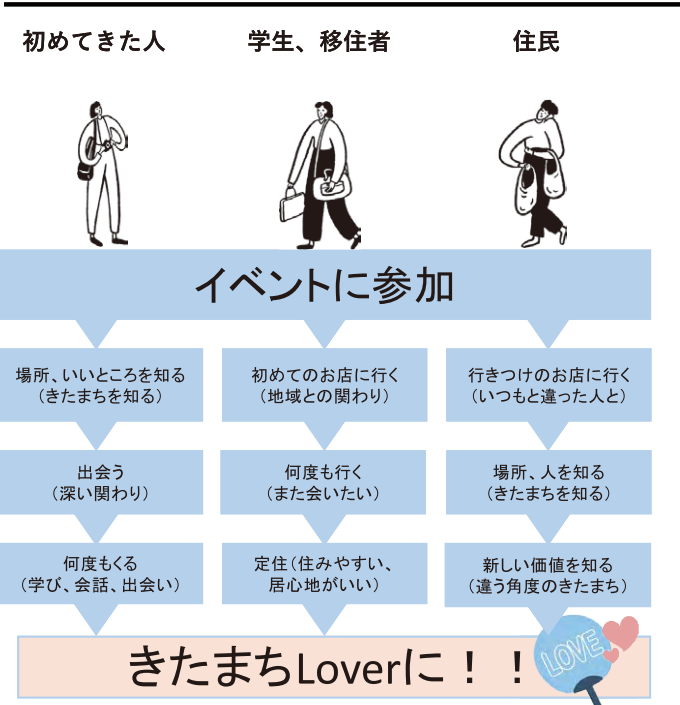
5. かまど×器のイベント 「御膳セットプロデュース～きたまちをのせて～」



6. 畳×本のイベント「ほんのまち きたまち プロジェクト～絵本でつながる心の輪～」



7. 目指す姿 きたまちloverとは？



1. きたまちを歩いて考えたこと

4月のフィールドワークを通じて、私たちのグループはきたまちに形づくられた路地のコミュニティに魅力を感じた。しかし、その魅力は十分に伝わっていない。そのため、路地の奥では空き家が出れば、次の居住者もないまま放置されているのが現状である。

路地の魅力を伝えることができれば、路地に住みたいと思う若者も増えるのではないだろうか。路地の魅力を発信し、きたまちを活気づける取り組みを行いたい。

2. きたまちの路地の魅力とは？

私たちが特に魅力的だと感じたことは

- ・ 住人どうして生活の助け合いをしている
 - ・ 食べ物のおすそ分けが盛ん
 - ・ 我が家の玄関のような安心感を感じさせる
- これらの魅力をぜひ伝えたいと感じた。



野菜をおすそ分けしてくれる！



雨で濡れてしまう洗濯物を取り入れてくれる！

3. どのように伝える？

外国人観光客も多い近鉄奈良駅周辺でこの魅力をどのように伝えるのか？

私たちは紙芝居で伝えることにした。

？？ なぜ紙芝居を選んだのか？ ？？

1. 絵を見せることで外国人にも伝えることができるから
2. 子供たちも年配の方も楽しんで物語を見られるから
3. 現代で紙芝居を披露する事でインパクトを与えられるから



▲実際に作成した紙芝居。

4. 現地見学&ヒアリング

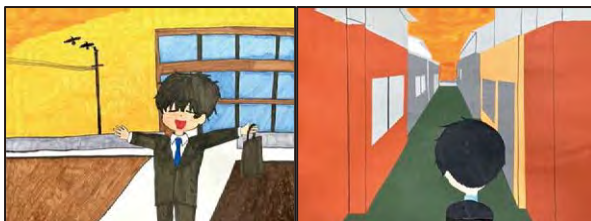
物語の構成を練ることと、新たな路地の魅力を発見するため、フィールドワークの際案内して下さった方にヒアリングを行った。その後改めてきたまちの路地を歩き回った。



きたまちのあらゆる路地を巡った。

5. 紙芝居作成

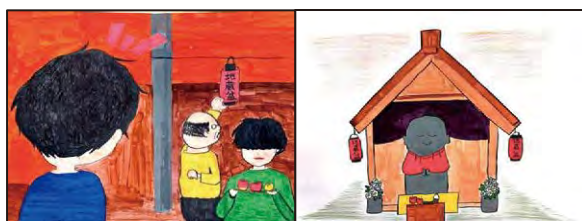
4つの物語に決め、台本の作成をし、紙芝居の絵を描いた。



▲1話：我が家のような安心感を伝えるお話。



▲2話：洗濯物を取り入れてくれるお話。



▲3話：路地のお地蔵さんのお話。



▲4話：野菜をおすそ分けしてくれるお話。

6. 今後の活動展開

今回作成した紙芝居を使って、きたまちの路地の魅力を次のように伝えたい。

- ①：きたまちやその他各地で私たちが紙芝居の読み聞かせを行う。
- ②：字幕・翻訳機能を活用して多言語対応し、YouTubeにアップロードする。
- ③：私たちの紙芝居を線のみの塗り絵用紙にし、誰でも塗り絵&紙芝居の読み聞かせができるようにする。



子供と中・高齢層の多世代「共存」の場としての きたまち「街区公園」再考

motto きたまち応援団（奈良県立大学） 乾真友 因千晴 上田佳鈴 岸本莉於 金美沙
桑原むつみ 鶴田裕斗 浜松奈月 森一望 山田みはる

1. きたまちが抱える課題とは？

《現状》

- ・きたまちに子供の姿があまり見られない
- ・地域の方々と学生とが関わる機会が少ない
- ・住民の高齢化によりイベントの規模が縮小・簡素化

《課題》

- ・子供と中高齢層の関わる場／機会の不足

暮らしの身近にある「街区公園」に注目
きたまちの街区公園を**多世代交流の場**として
「motto」よい場所にすることを目指す！

2. 調査方法

《対象地》

きたまちの街区公園の中から
佐保小学校と鼓阪小学校の校区に注目



- ・転轄門街区公園
 - ・多門町街区公園
 - ・吉城川街区公園
- の3公園が対象
- ※ 特にきたまちらしい立地環境の3公園



アンケート
(鼓阪小・佐保小)
子供たちの普段の
公園利用・意識など



ヒアリング
公園利用・管理状況
(自治会など地元住民)
公園計画思想(公園緑地課)



現地調査
測量
空間構成把握
利用状況確認

3. 調査結果にみる課題と可能性

- ・総じて設置時期は古く、**設備が古く老朽化が進んでいる**。順に修繕しているが、十分には追いついていない
- ・子供たちは**遊具がある、走り回れる、安全できれい**といった公園を求めて校区外に広範に移動している(図1)
- ・**管理に地元が関与するケースは限られており**、自治会は高齢化、人手不足、予算不足⇒**“維持で精一杯”**な現状
- ・地域団体による公園美化や管理活動に報奨金を交付する「グリーンサポート制度」の登録数は少ない
- ・総じて**大人の利用は少なく**、公園を舞台とした行事も行われていない
- ・街区公園の清掃活動は、地元住民が**顔を合わせたりコミュニケーション**を取る貴重な機会になっている



図1: 鼓阪小・佐保小の子供たちが実際に遊んでいる公園

4. きたまちの子供+地域住民にとって 望ましい公園に向けた提案

「皆で作り育てよう！きたまち公園プロジェクト」

各公園の質の改善につながる、簡単な設備の設置や色塗りを地域の子供や住民と一緒にやって行う、**公園の管理を「楽しむ」行事(イベント)の実施** ⇒一過性に終わらず中・長期的に恒常化していく

5. 提案概要（短期 本年度～実施に向け検討中）

ハード面：各公園に必要な設備の設置や色塗り

ソフト面：多世代交流ができるイベント実施

※ハード面とソフト面の改善を同時に実現する



奈良市の遊具＝青という固定観念から脱しきたまちらしい基調色や配色を皆で考える！



多門町街区公園

ベンチが少なく、
大人の利用が少ない

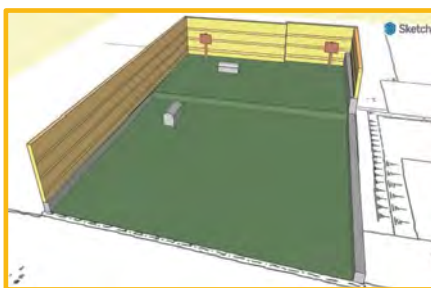
⇒地域の人々とベンチの設置&遊具やベンチのペンキ塗り



転轄門街区公園

認知度が低い（奈良市最小面積の街区公園。「通り道」利用が主）

⇒公園の名前などが書かれた看板をみんなで作る



吉城川街区公園

塗装の劣化による雰囲気の悪化

⇒地域の人々とペンキ塗り



JW-cad + SketchUpで作図

6. 今後の展望（中・長期プロジェクト）

ハード面：より魅力を高めるための整備

ソフト面：学生や住民と一緒に定期的なお掃除会＋上記の整備を含め公園管理を楽しむイベントの定例化

多門町街区公園

- 机・椅子・照明の増設
- 入口通路に「けんけんぱ」を描く
- 水飲み場を復活させる



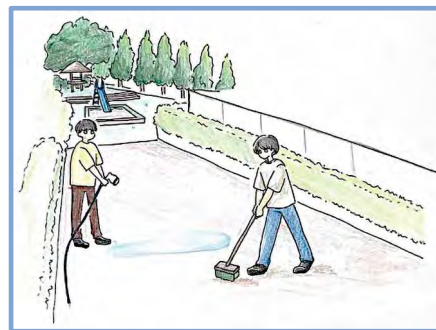
転轄門街区公園

- 和傘風のパラソル貸出
- 場所にまつわるクイズの設置
- ※隣接する「奈良市きたまち転害門観光案内所」と連携して実施



吉城川街区公園

- 園路の舗装洗浄
- 砂場の手入れ
- 東屋にライトをつける



表彰

最優秀賞 / 転害門前旧銀行建物活用協議会賞
過去・現在・未来を結ぶ「奈良きたまちの郷土かるた」
ー子どもたちに伝えたい「きたまち」の魅力ー
大和ならきたまちチーム / 奈良学園大学

鼓阪地区自治連合会賞
きたまちで暮らそう
きたまちづくり / 畿央大学

鍋屋連絡所の保存・活用と奈良きたまちのまちづくりを考える会賞
奈良きたまちの歴史資産の魅力再発見
みんなで守る資産 / 畿央大学

奈良市賞
みんなの居場所きたまち ～きたまちloverを増やしたい～
都市計画研究室 / 同志社女子大学

きたまちコンセント賞
路地裏の魅力
路地裏物語 / 畿央大学

佐保地区自治連合会賞
子供と中・高齢層の多世代「共存」の場としてのきたまち
「街区公園」再考
mottoきたまち応援団 / 奈良県立大学





全てのプレゼンテーション終了後、
以下の4名の審査員により

先駆性

先進的でオリジナリティのある取組

活用性

地元還元度や地域実践性が高い

調査分析力

地元の実情を踏まえている

説得力

プレゼンテーションのわかりやすさ

などの観点から厳正な審査を行いました。



各審査員からの講評

奈良きたまちをフィールドにした取り組みも4年目を迎え、昨年までの名称「コンペティション」から今年は「フォーラム」に名前を変えました。競い合いのコンペから集い、意見を交わすフォーラムへの名称更には実際の内容にあったものと感じました。名称だけでなく運営方法も改良されていて、進化中の催しでもあります。学生諸姉諸兄、先生方、協力くださったきたまちの皆さん、そして事務局、お疲れ様でした。

調査・分析・課題抽出（明確化）・提案という流れは明快で、きたまちを調査し、皆さんと交流するなかで課題を洗い出していました。毎年、学生さんの心に刺さるテーマがあるようで、複数のチームが同じテーマに取り組むことが多々ありました。たとえば、魅力発信が不十分なので SNS を使って発信する、買物難民対策を考えるなど、調査のなかできたまちの皆さんからの語りかけが大きく影響していたようです。その点、今年はテーマ設定が多用でした。あえて傾向をみると、きたまちを次世代に引きつぐための新しい町づくりの担い手がしと仕組みづくりでしょうか。きたまちの課題をよくとらえていたと思います。魅力の再評価・再発見も新しい住まい手や次世代の視点にたったものでした。発信の方法も、かるた・紙芝居・地域の広報誌など、ネットに頼らず古くから慣れ親しまれ、世代によっては新鮮なメディアを使っていたことも好感がもてました。フォーラムのますますの進化を期待します。



大阪市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）館長

奈良女子大学・京都大学名誉教授

審査員長 増井正哉



今回のインターカレッジフォーラムでの各グループの提案は以前と比べより実現性の高いものであった。地域の現状、歴史を写真、文献、ヒアリングでの確にとらえ目指す方向性を提示している。例えばグループ1、2共にきたまちの活性化に、子供、子育て世代を呼び込むことに注目し自治会ごとの「情報冊子」、街の魅力を伝える「郷土かるた」等 本来我々自治会や、住民がやらなければならない基本的なことを提案している。しかも発信手段としてAIやSNSだけでなく「冊子」「かるた」「紙芝居」等直接相手にアピールする方法を提案していることに感心した。これらの提案は今後実現するよう努力していかなければならない。

鼓阪地区自治連合会副会長 有山 行基

今年度の各チームが取り組まれましたテーマの特徴は、すぐにでも具現化できる提案であったことです。「奈良きたまちの郷土かるた」は子どもたちの溢れる笑顔が思い描かれました。また自治会冊子の創刊、路地裏の魅力発信、街区公園の再考についての提案は、日々様々な地域の課題活動に携わるものとして、見落としていた課題であり衝撃を受けると同時に新たな地域課題として受け入れたく存じます。特に、地域の自治会からきたまちの魅力発信の展開をテーマとされましたことに、驚きと興味深く受け止めさせていただきました。

今年度もこの様なコンペの機会にめぐり合わせていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

佐保地区自治連合会会長 岡崎 忠直



昨年に引き続き2回目のインカレ審査員として参加させていただきました。

前回は初めての参加で、大学生の皆さんの提案内容のレベルの高さに大変驚いたこともあり、今回もどんな提案をしてくれるのか非常に楽しみにしていましたが、期待通りの内容で、それぞれのグループが独自の視点で地域の課題解決につながる提案をしてくださいました。とくに今回は紙芝居やカルタといった「もの」を使ってこれまでとは違った見せ方・考え方も示されており、よく工夫されていると思いました。関わった人たちが様々なことに気づき、気づかされる機会となるインカレの取組みが今後も続いていくことを願います。

奈良市観光経済部部長 栗山 稔



地域・教員からひとこと（50 音順）

きたまちをご案内すると、私自身にも新たな気づきや発見があります。でも、それはその時限りのことになりがち。学生のみなさんの気づきや発見は仲間とのディスカッションで広がりを持ち、さらに深まる。それを聞かせて、見せてもらえること、本当にうれしく思っています。これからも、奈良きたまちに遊びにいらしてくださいね！

新井 忍（なべかつ・きたまちコンセント）

今回の発表では、カルタあり、紙芝居あり、模型あり…で、地域の課題の解決策を具体的に示してくれるグループが多く、うれしくなるとともに、大いに刺激をいただきました。学生さんの意見を受け止め、地域の側も「きたまちをどんな町にしたいのか」を話し合い、熟考した上で、課題を解決していく動きを加速させなければと思います。

倉橋 みどり（きたまちコンセント）

去年のインカレでは学生さんたちの提案の中間発表が行われ、それに対して地元から意見や感想を出して学生さんの提案にフィードバックするという双方向的なプロセスが生まれました。今年はそのプロセスを踏まえながら、さらに提案を超えて具体的にきたまちに残る、いわば「レガシー」を生み出す活動が複数生まれました。奈良きたまちインターカレッジフォーラムの進化がますます楽しみになってきています。

倉本 宏（なべかつ）

学生の方々の新鮮な視点できたまちを観察。地域と学生のみなさんとお互いに刺激しあい、応答しあい、毎年どんな視点で何を提案されるのかワクワクします。今年は、これまでにない新しい提案や取組も多く見られワクワク感がさらに増しました。関わっておられる先生方も大変だと思いますが、引き続き地域と大学、市とが連携した取り組みを発展していければと思います。

瀬渡 比呂志（なべかつ）

今年も若い学生さんの視点で地域が抱える課題が浮き彫りになり、新たな視点できたまちの振興につなげる提案がされました。特に今年は、観光という視点ではなく、地域の魅力を発信しつつ、定住人口を増やすためにはどうすれば良いかといった一歩踏み込んだ提案が多くありました。これらの提案を具体化し、少しでも地域の課題を解消できるよう私たちも真剣に取り組んで行きたいと思っています。

山口 育彦（てんかつ）

今年で4年目。年を増すごとに実現性のある発表が多く見受けられ良かったです。学生さんの発表意見を前向きにとらまえ、今後若者・こどもたちが住みよい街にするため、行政とも話し合い地域活性化を図っていきたいと思います。奈良きたまちは高齢化が進んでいるため、奈良きたまちが衰退しないよう学生さんたちの能力を発揮して、今まで通り住みよい魅力のある街であり続けるよう今後も提案をお願いします。

吉田 守（なべかつ）

地域の皆様の学生受け入れには様々なご苦勞があると拝察しますが、熱心なご指導に学生たちは大いに刺激を受けていました。今回の提案が地域に寄与する可能性に期待が膨らみます。学生の斬新な視点と地域の豊富な経験の融合が、新たな可能性を開くと確信しております。

清水 裕子（畿央大学 健康科学部人間環境デザイン学科）

皆さんよく頑張りました。例年以上に「きたまちの魅力をもっと伝えたい！」という熱い思いが伝わってくる提案で、とても興味深く聞いていました。また、実現に向けて動き出している提案もあるとのこと、とても楽しみにしています。この活動での貴重な経験と学び、お世話になった方々への感謝の気持ちを決して忘れないでください。

中井 千織（畿央大学 健康科学部人間環境デザイン学科）

毎年きたまちをフィールドとしているのに毎年異なる提案がなされ、一教員として楽しく成果を聞かせてもらっています。またパネルディスカッションで地域の方々と話す学生を見ると、このプロジェクトに参画することでの成長を感じます。このような機会をいただき、奈良市そして地域の方々には感謝しかありません。

麻生 美希（同志社女子大学 生活科学部人間生活学科）

奈良学園大学は、今回で2回目の参加です。今年度は、地域の方々と学生が協力して「奈良きたまち郷土かるた」づくりに取り組みました。地域の方々の温かい支援や協力が、学生にとって大きな励みとなり、課題解決に向けた貴重な経験を得られたと感じました。ありがとうございました。

岡野 聡子（奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科）

回を重ねる度に、各大学の多様で生き生きとした報告から、私自身が多くのことを学んでいます。本フォーラムを支えていただいている地域のみなさまに、改めて心より感謝いたします。調査に多大なるご協力をいただいた鼓阪小学校、佐保川小学校、多門町、雑司西町、手貝町、念声寺、奈良市公園緑地課のみなさま、本当にありがとうございました。

井原 縁（奈良県立大学 地域創造学部地域創造学科）

本年度は、奈良女子大学は残念ながら学生参加できませんでした。教員個人としては運営面で主に審査方法の改善に関わり、今年から審査項目に「活用性」を入れました。審査員長や他の先生方とも意見が一致したのですが、特に今年度は活用可能なアイデアがたくさん出ていたからです。インカレの進化を感じました。

山本 直彦（奈良女子大学 生活環境学部住環境学科）

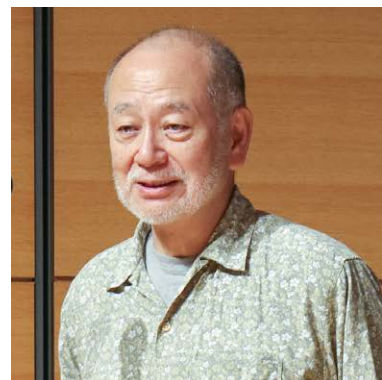
謝辞

会場の片隅で、私はワクワクしながら学生の発表を聞いていました。4月のまち歩きの冒頭で、「学生と住民が力を合わせれば、行政の助力を期待しなくても実現できる提案をしてほしい」と学生たちをお願いしたことがどのように反映されているのだろうか、期待と不安で胸をいっぱいにして聞いていました。どの発表もこれまでの3年間とは違う着眼点を持ち、提案内容も創意工夫に富んでいて、独創的で、魅力的なものばかりでした。発表を見て、聞いていて、楽しくなるものばかりでした。

一方、学生諸君は割り当てられた時間が短く、もっと詳しく説明したいと思ったのではないのでしょうか。発表会後のパネルディスカッションではつらつと説明する学生たちの様子を見ると、このフィールドワーク型の合同授業は期待以上の効果を生んでいることが実感できました。

審査員の先生たちは、力作ぞろいの提案の中から、一つだけ最優秀賞を選ぶのに苦労されたのではないのでしょうか。結果として、最優秀賞に輝いた奈良学園大学のチームの提案は郷土かるたを作り、地域の魅力を発掘し発信するという楽しいものでした。しかし、それ以外でも、奈良県立大学のチームが提案した、地域の公園を住民の手で作り替え管理するという案をはじめ、すぐにでも実現できる、すぐれた提案が多くありました。これらの提案が、きたまちでどのように活かされていくのか、今後の楽しみが膨らむばかりです。

きたまちを対象にした大学間の合同授業も、当初目標にした3年を超えて、名称も「きたまちインターカレッジフォーラム」と改め、4年目を迎えることができました。当初考えていたよりも、大きく、様々な気づきを与えてくれるものに発展してきました。これも、なべかつ、てんかつ、きたまちコンセプトをはじめ、地域の皆様のご協力とご支援がなければできなかったことです。深く感謝を申し上げます。また、企画運営にご協力、ご指導をいただいた奈良市奈良町にぎわい課の皆様にも感謝いたします。ありがとうございました。



畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科教授 三井田 康記

今年度より「奈良きたまちインターカレッジコンペティション」から「インターカレッジフォーラム in 奈良きたまち」に名称を新たにし、4回目となるインカレを実施することができました。

大学生の方々がきたまちでまち歩きを行い、見えてきた課題の解決に向けて、地域の皆様や関係機関へのヒアリングを実施されました。そして、独自の視点で研究を深め、それぞれのチームでオリジナリティあふれるご提案を発表いただきました。大学生の皆様のご努力と、大学の先生方や地域の皆様による多大なご協力のお陰で、大変意義深い発表会を開催できましたこと深く感謝申し上げます。

本事業で、実現の可能性が感じられる発表が、近年増えてきているように感じています。大学生の方々が地域に入り、住民の皆様のお考えを直接お聞きし、大学の先生方によるご指導のもと、柔軟な発想で提案いただいたご提案は、地域にとって有意義な事業になると考えています。

本プログラムに参加くださった大学生の皆様は、地域活性化に興味を持たれている方が多いかと思います。決められた期間で、成果発表という形にまとめるために大変苦勞をされたことと思いますが、今回の経験を生かし、地域を担う人材として一層活躍されることを期待いたします。また、大学の先生方や地域の皆様をはじめ多くの方々にご協力いただきましたこの取組により、参画と協働のまちづくりの機運が更に高まっていくことを祈念いたします。



奈良市長 仲川 伸

参加者一覧

○参加学生

畿央大学

「きたまちづくり」 神野陽那汰 丹上敦登 橋本大輝
「みんなで守る町の資産」 上田葵生 田中紅葉 田中悠夢 角矢奈央樹
「路地裏物語」 後藤克 橋本優大 八木莉子

同志社女子大学

「都市計画研究室」 才津彩葉 平野睦津子 栗田夏穂 村上睦菜 西田笑夏
関口ナイル 杉浦希美 谷野喜来理

奈良学園大学

「大和ならきたまちチーム」 中山友基 平野健太 齋藤慶一 西村大稀 山崎泰輝 藤本歩奈

奈良県立大学

「motto きたまち応援団」 乾真友 因千晴 上田佳鈴 岸本莉於 金美沙
桑原むつみ 鶴田裕斗 浜松奈月 森一望 山田みはる

○事業参加団体

「奈良町・大学間協議会」

畿央大学、天理大学社会教育学科、同志社女子大学生生活科学部人間生活学科都市計画研究室、
奈良学園大学、奈良県立大学、奈良女子大学生生活環境学部住環境学科、
きたまちコンセント、転害門前旧銀行建物活用協議会（てんかつ）、
鍋屋連絡所の保存・活用と奈良きたまちのまちづくりを考える会（なべかつ）、奈良市 （50 音順）

発行日	令和 6 年 12 月
発行	奈良町・大学間協議会、奈良市
表紙デザイン	畿央大学 健康科学部人間環境デザイン学科 中井千織
編集	畿央大学 健康科学部人間環境デザイン学科 中井千織、天理大学社会教育学科 田中梨絵 同志社女子大学 生活学部人間生活学科 麻生美希、奈良県立大学 地域創造学部地域創造学科 井原縁、 きたまちコンセント 倉橋みどり、奈良市 観光経済部 奈良町にぎわい課 高洋平

表紙：奈良女子大学の守衛室と門柱

